

学校点描

続

先週から部活動強化週間に入っています。地区総体の組み合わせ抽選会が2日間にわたって行われています。

《M中学校》

NO.5

R6. 6. 6

担当：校長

5月31日（金）に『M未来塾』（職業体験）を本校会場で実施しました。昨年度は町内外から12事業所さんがブースを開いてもらいましたが、今年度は6事業者さんが増えて18のブースでの実施となりました。学校の施設をほぼ全て利用して、一部は雨の中、外で実施していただきました。参加した中学生とM高校校生も真剣に話を聞いて実際に体験をしています。最後に感想発表で、3年生のK・Rさんは、自分の将来を考える上での参考にしたいと話しました。2年生のA・Mさんは、楽しませる工夫とか方法が凄かったことと、担当の方々の言葉には聞き逃せない大切な言葉があったと話しました。1年生のT・Sさんは、この体験を通して、自分も人の笑顔を作りたいと話してくれました。発表してくれた3人とも、とても大切なことに気づき始めているようです。

キャリア教育

単身赴任で北海道から東京へ出ていた父親が、久しぶりに帰郷してきます。父親の帰りを待ちわびる家族の気持ちを捉え、その模様を画にしようと、ある家族にスポットを当ててテレビ局が取材をし、それを放映していました。その中で、家族のうちの一人、小学2年生の男児がインタビューされていました。

「外で働いているお父さんが帰ってきたら、なんて言う？」

「分からない。言うことがいっぱいあるから・・・」

男児は、何を言おうか、考えあぐねて返事に窮しています。



今年度は、教師の業務分担のひとつに新たに『キャリア指導部』を新設し、和田先生をリーダーに、『キャリア教育』に力を入れています。キャリア教育は将来の“仕事探し”と考えがちですが、それはある一部分だけで、本来は“人生の目的”、“自分らしさを持って生きること考える”教育です。というと、なんか哲学的に感じられるかもしれませんが、子どもから学生、労働者、配偶者、地域人、年金受給者と、人はいろいろな役割を演じて生きていきます。人生の役割が変化しても、自分が自分であり続ける何か「芯」になるものを持っているかが大事なのだと思います。人生を生きていくために大切にしたい「芯探し」が、キャリア教育です。

「芯探し」のひとつとして、『もがみ未来塾』を開催しました。この教育活動に協力してくれた事業所の方々には、仕事体験のブースを校舎内外に作ってもらいます。各ブースは、さまざまな工夫が凝らされています。建設機械を使ってゲーム感覚でボールをすくう体験や、調剤薬局で実際に薬をすりつぶす体験をラムネを使って行うブース、雑誌編集の基礎を学ぶブースもあれば、コイルを撒いてモーターを作る科学体験のようなブースもあります。他にもさまざまです。町内の医療関係のブースでは、腹部エコーの機械を使ってゼリーやおでんを袋の上から中身を透視する体験ができました。説明する際に使う掲示物も丁寧に作られています。「掲示物を作成するのも随分大変だったんじゃないですか？」と尋ねると、「生徒さん達に体験させる機会はとても楽しいから苦になりません」と看護師の女性の方が教えてくれました。今回ブースを開いてくださったどの関係者の方々も、ご自分の仕事を紹介しながら、誇らしく生徒たちに語っているように見えました。



テレビの中では答えに窮している男児へのインタビューはさらに続きます。なんだか意地悪にも感じてしまいます。

「駅で出迎えて、お父さんの姿が見えてきたら、なんて言う？」

男児はまたしばらく考え込みました。その光景を思い浮かべていたのでしょうか。やがて出てきた答えは、

「ニコっと笑う」でした。「お帰りのさいでもない」働く父が一番喜ぶのは何かを、少年はすでにわかっています。

働く父の誇りを知っています。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp